

第 2 回 生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会

議事録

[開催日時] 平成 29 年 1 月 24 日(火)10:00~12:05

[開催場所] 伊達市役所保原本庁舎 2階 庁議室

[出席者](五十順、敬称略)

(委員)

在宅介護支援ネットワークおりの会 小野寺敏

福島学院大学福祉学部福祉心理学科 教授 日下輝美

パナホーム株式会社分譲事業推進部事業開発グループ 桑田和伸

株式会社東邦銀行 保原支店長 斎藤進

社会福祉法人伊達市社会福祉協議会 地域福祉課長 佐藤由美

福島大学人間発達文化学類 教授 牧田実

伊達市保原地域包括支援センター 所長 森美樹

福島県県北地方振興局 次長 渡部美香

(事務局)

伊達市市長直轄理事 半澤隆宏

伊達市市長直轄参事 宮崎雄介

伊達市市長直轄総合政策課課長 佐藤時則

伊達市市長直轄総合政策課主幹兼地域創生係長 岡崎和也

伊達市市長直轄総合政策課主査 長谷川徳也

伊達市市長直轄総合政策課地域創生担当専門主査 芳賀欽也

(委託事業者)

株式会社三菱総合研究所 田村隆彦

株式会社三菱総合研究所 古市佐絵子

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 牧野夏葉

[配付資料]

・ 資料1 第 1 回生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)推進協議会議事概要

・ 資料2 インターネットアンケート結果報告

・ 資料3 首都圏在住者グループインタビュー報告

・ 資料4 市民ワークショップ報告

・ 資料5 視察結果報告(オークフィールド八幡平)

・ 資料6 効果影響分析結果

・ 資料7 生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)基本構想(草案)

・ 資料7 今後の進め方

1. 開会

- 事務局(佐藤時)より開会のあいさつを行った。

2. あいさつ

- 事務局(半澤):

本日は、基本構想の草案を協議いただきと考えております。第 1 回協議会からこれまで、オークフィールド八幡平へ視察したと伺っております。CCRC は、検討の幅が広く、汎用性が高くありませんが視察した結果や様々なご意見等を踏まえ、生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)基本構想に反映していきたいと考えております。本日は、よろしくお願ひいたします。

- 事務局(佐藤時):

本日、中野委員からは欠席の連絡をいただいております。また、座長 牧田委員、小野寺委員は、雪の影響で遅れると連絡をいただいております。座長 牧田委員が到着されるまでは、職務代理者である日下委員に議事進行をお願いいたします。

3. 議事

(1) 第1回推進協議会の振り返り

- 日下委員：
事務局より、説明をお願いします。
- 事務局（長谷川）より、資料1を市のホームページに公開した旨、資料7のP3より、第1回協議会開催から第2回協議会開催までの活動に関して、説明を行った。
- 日下委員：
何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
(質問なし)

(2) 移住者ニーズ調査結果報告・市民ワークショップ報告・視察結果報告

- 日下委員：
次第(2)の居住者ニーズ調査結果から(4)市民ワークショップ報告まで、事務局より説明をお願いします。
- 事務局（三菱総合研究所 古市）より、資料2の説明を行った。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）より、資料3・資料4の説明を行った。
(牧田委員到着により議長交代)
- 牧田委員：
資料2に関するご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
(質問なし)
- 牧田委員：
資料3に関するご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
(質問なし)
- 牧田委員：
資料4に関するご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
- 森委員：
オークフィールド八幡平には地元の方と関東圏の方が暮らしていると認識しておりますが、その割合は同じくらいでしょうか。異なるようでしたら、教えてください。
- 事務局（宮崎）：
地元周辺の方に加え、盛岡と東京から来られた方で、割合は地元と東京で半々くらいが暮らしていると伺っております。
- 小野寺委員：
何名くらいが暮らせる規模なのか、教えてください。
- 事務局（宮崎）：
資料4 P2にあるとおり、全部で32戸あります。
- 小野寺委員：
資料4 P2の説明概要より、医療等のバックアップは東八幡平病院が担っているという認識でよ

ろしいでしょうか。

- 事務局（宮崎）：
ご認識のとおりです。また、医療介護連携に関しては、医療法人みちのく愛隣会が積極的に実施していると伺っております。
- 小野寺委員：
定期巡回型の地域サービスの実施あるいは、そのような取組ができる体制を構築しているといった説明はありましたでしょうか。
- 事務局（宮崎）：
ドクターが往診しているとは伺っております。ただし、サービス付き高齢者向け住宅として、健康状態のチェックや相談、安否確認等ができる仕組みは構築していると思われまます。
- 斎藤委員：
金融機関の立場から、意見を述べさせていただきます。いただいた資料から事業形態はわかりませんが、入居状況を踏まえると、今後、事業として成り立つのかが気になりました。オープンしてまだ1年足らずということも原因とは思いますが、伊達市で行う際には、どのように市の優位性をアピールし、入居者を集めるのかが重要になると感じました。
- 事務局（宮崎）：
ご指摘のとおり、他の地域との差別化が重要であることは認識しております。伊達市に来たことがない方に移住いただくことは難しいと認識しておりますので、まずはUターンの方がメインターゲットになるのではと考えております。オークフィールド八幡平の経営に関して、詳細を伺うことができませんでしたが、昨年シェア金沢へ別途視察した際に伺ったところ、事業計画4～5年目で黒字になるという計画を立てており、実際に最近入居者が埋まりつつあると説明がありました。シェア金沢でそのような状況であることを踏まえ、融資を受けるには、地元の理解と信頼関係の構築、母体の体力が必要であることを認識しました。
- 牧田委員：
前回、いくつか事例が挙げられていたかと思いますが、いずれも入居状況は空きがある状況と認識してよろしいでしょうか。
- 事務局（宮崎）：
詳細は把握しておりませんが、有名なシェア金沢の状況も踏まえると、当初は空きが発生するものと思われまます。資料7 P3に記載をしましたが、4月にゆいま〜る那須へ視察する予定です。その際に、経営や事業計画など確認ができればと考えております。
- 小野寺委員：
サービス付き高齢者向け住宅の事業は、併設事業やその他事業の利益と合算することで運営が成り立つ仕組みになっております。厚生労働省より、定期巡回型・随時対応サービスをメインに実施していきたいという方針が示されました。定期巡回型・随時対応サービスを導入すると、併設サービスを提供できなくなるため、今後ビジネスとして成り立つのかが気になります。
- 事務局（宮崎）：
シェア金沢の施設は、障がい者福祉施設とセットにした複合型施設であると伺っております。こうした工夫を今後検討することができればと感じております。

- 日下委員：
今回オークフィールド八幡平への視察に参加し、歳を重ねれば必要になるものが部屋に用意されていないことや、介護等を実施するために必要な部屋の広さが確保できていない点が気になりました。また、食堂に関して、一時的な利用者を優先した振る舞いが気になりました。コーディネーターの力量にもよるとは思いますが、居住者視点にたったサービスが重要であると考えます。
- 森委員：
お客様をお呼びする感覚ではなく、一緒に暮らす仲間を作るために、誰をターゲットとするのか整理が必要ではないでしょうか。これにより、必要となる機能は変わるのではと感じました。そのためコンセプトの検討が必要と感じました。
- 事務局（宮崎）：
オークフィールド八幡平の視察からは、街から離れていることへの対応や、今後介護が必要になった際の住まい方への工夫など、伊達市版 CCRC を検討する場合に、伺ったご意見を参考に対応していきたいと考えております。また、ターゲットの絞込みは難しいです。こういったターゲットにはどのようなアプローチをし、どういう施設を整備するのか、ニーズ調査の結果も踏まえて、基本構想の中では方向性を考えたいと思います。

(3) 効果影響分析（税収増、介護負担の増などの分析結果）

- 事務局（三菱総合研究所 田村）より、資料5の説明を行った。
- 牧田委員：
何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
- 森委員：
今回提示いただいたデータは、全国平均で整理した結果でしょうか。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）：
要支援・要介護の移行割合は、全国平均のデータを使用しております。
- 森委員：
伊達市の割合（19%）は全国平均（15%）より、少し高い値を示しているため気になりました。また、伊達市に既にお住まいの方は考慮した推計なのでしょうか。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）：
あくまでもこの推計は、伊達市に5年間で100人移住した場合の移住による影響のみを対象に試算しております。
- 牧田委員：
こちらの想定は、世帯ではなく個人が計100人移住した場合を想定して、試算した結果でよろしいでしょうか。例えば、夫婦で移住した場合は、合計2人移住したという理解でよろしいでしょうか。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）：
ご理解のとおりです。

(4) 生涯活躍のまち（伊達市版 GCRC）基本構想（草案）

- 事務局（三菱総合研究所 田村）より、資料6の説明を行った。
- 牧田委員：
質疑・ご意見等あれば、発言をお願いいたします。
- 日下委員：
【P38】に（仮称）伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会は、各関係機関と協議調整等を行うとありますが、これは【P41】に記載する地域にそれぞれ設置し、それぞれが支える仕組みを構築するという理解でよろしいでしょうか。それとも、（仮称）伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会が全て対応するのでしょうか。
- 事務局（宮崎）：
現状は、どちらの形もありうるかと考えておりますので、基本構想には明記しておりません。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）：
移住の呼び込みを各地域で対応するのは難しく、市全体で体制を構築して各地域と連携しながら取り組む必要があるかと思えます。それ以外に地域毎の取組に関しては、全市の協議会の下にワーキングを設けるなど、階層的な構成が現実的な方法ではないかと思えます。
- 小野寺委員：
ターゲットは、定まっていないという理解でよろしいでしょうか。
- 事務局（宮崎）：
今後の検討と認識しております。
- 小野寺委員：
伊達市ならではの就職先は、農業関連といった説明がありましたが、他に何かございますか。体が元気なうちに移住していただくために、収入を得る方法の拡充が必要ではないでしょうか。
- 三菱総合研究所 田村：
他の地域にはなく、伊達市ならではの視点から、果樹の栽培と加工やニット等のクラフト的な工芸が売りになるのではないかと感じております。他の地域でもできる仕事に加えて、この地域でしかできない仕事を提供していく必要があるのではと感じました。
- 日下委員：
新たなビジネスや雇用を創出するために、大学の生涯学習等の活用などの産学官連携が可能ではないかと感じました。
- 桑田委員：
まちを整備する際、ITのサテライトオフィスを構築する等の仕組みを取り入れ、世代間の交流ができる場所が提供できればと感じました。農園のニーズがあることを踏まえ、シェア農園の仕組みを取り入れた方が良く感じました。アクティブシニア向けの住まいに関して、戸建てへのニーズがある中、関東圏はマンション系が多くあることを踏まえ、関東圏と差別化した形で整備することができるのではと感じました。またこれらの整備に関して、それぞれの地域で対応するより、コンパクトシティのような形も考慮できるとよいと感じました。また、財政の試算に関して、税金が上がりトータル的には良い結果を示しておりますが、28年目に赤字になることが示されております。これは、今までの黒字の累積があるから問題ないという認識でよろしいでしょうか。

- 事務局（宮崎）：
シミュレーションは、5年で計100名が移住することのみを想定したシミュレーションです。ご指摘いただいた点や世代交代等の循環がうまくまわれば、問題ないと認識しております。
- 糸田委員：
30年後は、よりサテライトオフィスへのニーズが高くなる可能性もあります。将来的には100人以上の移住を目指しても良いのではと感じました。
- 斎藤委員：
CCRCの基本的な考え方として、首都圏に暮らしている人をどれだけ地方に呼び込めるかが重要であると認識しております。福島県内で先駆けて移住政策に取り組んだ地域の1つに、小野町商工会が中心となって取り組んだ小野町のふるさと暮らし支援センターの例があります。震災以前より実施しており、当初は毎年2～3名ほど移住したと伺っております。震災以降は、移住希望者がいなくなっている状況と伺っております。地方創生の取組は、各地で実施されており、震災の影響がある中、伊達市がこの事業を実施するには相応の強みが必要と感じました。具体的には、果樹や阿武隈急行、福島・相馬の復興道路等によるアクセスの良さ、立地上の強みなどを活用して地道にアピールをしていかないと、100人集めることはかなり厳しいのではと感じました。
- 佐藤委員：
資料5のP3に関して、サービス付き高齢者向け住宅は5割とありますが、この数値に何か意図や決まりはあるのでしょうか。アクティブシニアをターゲットにしていくことは賛成ですが、仕事と夢を暮らしの中に取り入れられる仕組みがあると良いと感じました。まちづくりと支える仕組みの中で、障害のある方や子供を抱えた家族のうち移住を考えている方もターゲットに含まれるのでしょうか。JAとの連携、拡販に関してどのような展開を想定しているのでしょうか。仕事の1つに売り込みがあっても良いのではないかと感じました。資料6のP34にコンセプト案が記載されておりますが、「自然の恵み」という言葉の方が、全体的にイメージしやすいのではないかと、また「こころのゆとり」という言葉も入ってもいいのではないかと感じました。
- 事務局（宮崎）：
資料5のP3の5割とは、どれくらい財政に影響があるのかを試算する際の目安として仮定で置いた数値であります。
- 森委員：
広く移住者を集めるよりは、まずはゆかりのある方をターゲットとして逃さない施策を考えていく方が現実的のように感じました。また、体験居住や山間地留学、農業留学など、学生向け、お子さん向けの仕組みも入れてはどうでしょうか。1度も行ったことがない場所に暮らし、働きたいと思わないため、伊達市に来ていただく工夫とターゲットを逃さない仕組みが必要と感じました。
- 渡辺委員：
ふるさと暮らし支援センターによる移住の呼び込みは、福島県が先駆的に実施してきた取組であり、3年間ほど移住希望地第1位に選ばれた実績があります。震災以降、継続した取組が難しくなりつつありますが、昨年末に知事が定住・二地域居住の推進に関して、再度取り組みを実施する旨を示しました。介護人材が不足していることもあり、高齢者の移住に関しては、積極的に進めていないところではありますが、40～50代をターゲットに積極的に呼び込みたいと考えております。今後もふるさと暮らし支援センターが中心となり活動を進めていきたいと考えておりますが、全国どこの

自治体でも取組を実施している状況の中、福島県や伊達市を強くアピールするほかに、移住希望先ランキング上位自治体の傾向を踏まえると、自治体や関係団体で移住に対する支援体制を充実させる必要があります。魅力をアピールするだけでなく、支援体制をしっかり体制構築し、アピールしていく必要があるのではと感じました。

- 牧田委員：

戸建て希望の 40～50 代の方々に移住いただきたいと考えているかと思いますが、今後起こりうることに對して、どのような支援体制が組めるのか、どのようにアピールするのか、本当に体制が組めるのかが課題のように感じました。ゆかりのある人を大事にすることは良いが、それだけで 100 人規模の人間を集めることができるのか、現実的には難しい問題のように感じました。地に足のついた構想をまとめてしていきたいと思います。

以上で、議事を終了します。進行へのご協力感謝申し上げます。

4. その他

- 事務局（佐藤時）：本日の議事は、これにて終了します。事務局より、その他説明があれば発言をお願いします。
- 事務局（長谷川）：事務局より資料 7 の今後のスケジュールに関して、説明を行った。

5. 閉会

- 事務局（佐藤時）：

以上をもちまして、生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）第 2 回推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上